

松谷会長記者会見の概要

日 時：令和2年5月18日（月）15時00分～15時30分

場 所：（電話会見）

（質疑応答）

記者：

4月を振り返って、日米の株価が上昇に転ずる中、鈍ったとはいえ個人投資家から投資信託への資金流入が続いていることについてどのように評価されるか。また、5月以降の投資信託市場について、どのような動きを予想されているか伺いたい。

松谷会長：

3月をご承知のとおり基準価額が大きく下落し、個人投資家の方々の逆張り投資とも思われる大量の資金流入の動きがみられたが、4月は様子見姿勢の動きが広がったように思われる。前回申し上げたように、個人投資家の方々はコロナ禍の影響を比較的冷静に受け止めており、従前から皆様がおっしゃってこられたように、投資信託を長期で保有しようとする動きもあると理解している。ただし、依然として世界経済の動向は先行き不透明であり、今後も個人投資家の方々が買いを継続されてくるかどうかは不透明である。証券会社や銀行の店頭での営業もようやく再開されたところであり、そう簡単には販売が進むとは考えにくいのではないかと考えている。

記者：

バランス型投信からの資金流出について、その理由の一つとしてある特定のファンドで基準価額がフロア水準に到達して繰上償還が決まったということがあるが、バランス型で定番のように売れていた東京海上アセットマネジメントの「円奏会」や、ユニークな仕組みで昨年人気のあった日興アセットマネジメントの「グローバル3倍3分法ファンド」が、基準価額の大幅な変動にさらされたと思う。一般的にバランス型というのは安定しており、安心感を売り物にしていると思われるが、何らか投資家の信頼を損なうようなことがあったのか、あるいはたまたまこういった運用環境なので仕方が無いということか。

もう一点だが、投資信託の繰上償還や基準価額の変動に関して、運用会社や販売会社がお客様に十分説明していると考えているか。

松谷会長：

バランス型については、統計上、確かに資金流出となっはいるものの、いわゆる「リスクコントロール型」のうちある特定のファンドの繰上償還が決まり、償還前に投資家が売却したというケースが大半であろうとみており、バランス型全体について大きく資金流出したとは認識していない。

ご質問において、「円奏会」や「グローバル3倍3分法ファンド」について基準価額の大幅な下落があったとのご指摘があったが、2月や3月の世界情勢からすると、バランス型以

外のファンドであっても基準価額は下落している。

また、販売会社ならびに運用会社は投資家の方々に対し丁寧にご説明していただいていると認識するが、「グローバル3倍3分法ファンド」と言った商品性を鑑みると、市況の変動に応じて基準価額が大きく動くのは致し方なく、その点は投資家の方々においても適切に理解されていると思う。

「リスクコントロール型」については、こういう事態に至った場合には9,500円で償還されることで一定のリスクヘッジができる商品だということをしっかりと理解した上でご購入されており、100年に1度という市況の混乱により償還に至ったということは、損失が一定程度に限定されたという意味においてしかるべきだと理解している。

松谷会長：

先程、リリースさせていただいた件であるが、既に一部のメディアでも取り上げていただいているが、投資信託協会が主導して、このような市況環境であっても、慌てずに将来の目標を見定めて投資を続けようというメッセージを届けるべく、皆様に分かりやすいようにYouTube 通じた「継続は力なり！Stay the course！」というプロジェクトを開始している。現在、動画を5本公開しているが、今後さらに、10社ほどの経営トップないしはCIO（最高投資責任者）等が今までの経験をもとに、こういう時期にこそ丁寧に目標を持ち続けていこうと、各社各様のメッセージを発信していく予定である。投資家の方々にとって大変参考になる話だと思われるので、是非、皆様方からも周知して頂き、投資家の方々に普及していただけるよう、よろしく願いしたい。

以 上